

ラーニング・サポーター ♪ 6月のつづやき -JWUラーニング・コモンズさくらより-

図書館2階 JWUラーニング・コモンズさくら(以下「さくら」と略)では、学科・専攻推薦を受けたラーニング・サポーター(本学大学院生)が学修相談を受け付けます。学修相談以外にもミニ講座の開催や「さくら」の活動支援をしながら、感じたこと、思ったことを「つづやき」、本学学生の皆さんに学修相談に訪れてもらいたいと思っています。ラーニング・サポーターは「さくら」で皆さんをお待ちしています!

<6月のつづやき♪INDEX>

p.1 梅雨の晴れ間に @T.K.(関連文化論専攻博士課程後期3年) 6月12日 tweet!

つづやき1♪

梅雨の晴れ間に

先日の梅雨入り以降、天気が落ち着かない日々が続いておりますが、いかがお過ごしでしょうか。6月は、和風月名で水無月といいますが、所説ありますが、雨が多い「水の月」に「水無月」という字が宛てられたという説が一般的です。この時期の雨は稲の成長に欠かせない一方、蒸し暑くなることから、食中毒や風邪など病気の流行を引き起こすこともあります。今回は6月に行われるお祭りについて、少し紹介できればと思います。

6月が文字通り「水無月」すなわち水が全く無い場合、稲作や農耕に多大な影響が出てしまいます。そこで、人々は雨乞のために寺社に参詣・参籠したり、寺社の境内にて踊りを披露するなど、様々な方法で雨を願いました。

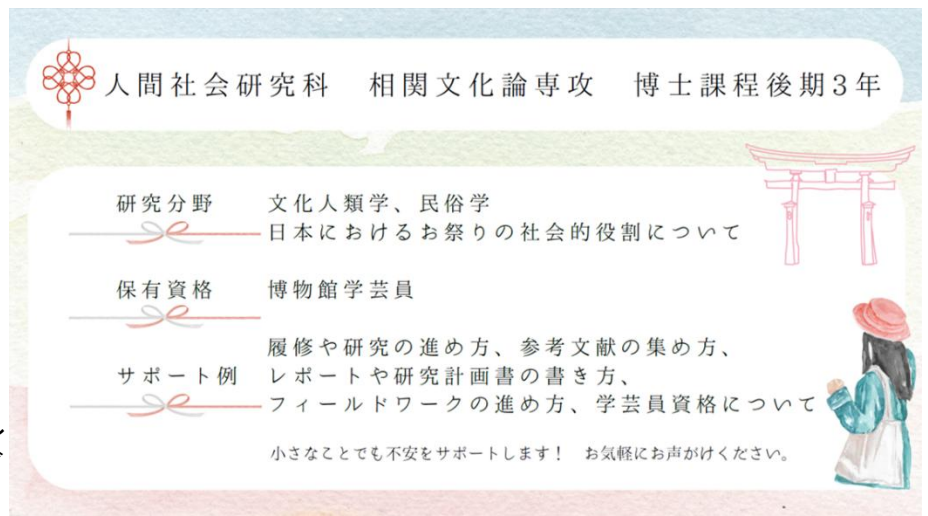
現在は、実際の旱魃に際して雨乞が行われることはほとんどありません。しかし、藁で作った巨大な龍を神前に奉納する雨乞祭(香川県や埼玉県など)、神前で奉納される念仏踊りや歌舞伎行列など(香川県、愛知県など)、沢山の幟旗を奉納する「岳の幟」(長野県)など、様々な形で雨乞が元になった祭礼が残っています。

逆に、水がありすぎると困るのは湿度です。暑さ、そして大量の雨による湿度によって食べ物は傷みやすくなり、身体の免疫力は落ちてしまいます。特に、現代のような衛生状況ではなかった時代は、あつという間に疫病が広まり、病気に罹ると命を落としてしまうこともありました。そこで、6月30日には半年分の身体の穢れを祓う「夏越の祓」と「茅の輪くぐり」が行われるようになりました。

また、6月に入ると祇園祭が始まります。京都で行われている祇園祭は、貞観11年(869)に疫病が流行したことが始まりで、元々「祇園御霊会」と呼ばれていました。「御霊会」とは、疫神や死者の怨霊といった、災いをもたらす存在を宥めるためのお祭りのことです。菅原道真が「天神」として神に叙されたのも、6月末に天皇の住まいであった清涼殿を襲った落雷の原因だとされたからでした。

現在は旧暦の6月から新暦の7月、8月へと祇園祭の祭礼日が移った場所も多いですが、愛知県の津島天王祭、京都府の祇園祭、福岡県の博多祇園山笠など、全国各地に様々な形の祇園祭が継承されています。

私たちの身体は、6割が水できているそうです。1年の折り返し地点である6月は、水に想いを寄せると共に、無病息災を願って過ごしていきたいですね。皆様も体調に気を付けてお過ごしください。それでは、また来月。



人間社会研究科 関連文化論専攻 博士課程後期3年

研究分野	文化人類学、民俗学 日本におけるお祭りの社会的役割について
保有資格	博物館学芸員
サポート例	履修や研究の進め方、参考文献の集め方、 レポートや研究計画書の書き方、 フィールドワークの進め方、学芸員資格について 小さなことでも不安をサポートします! お気軽にお声がけください。